

新しい価値観の日本酒に挑戦

尾瀬の環境保全、女性のエンパワーメント支援

誰でも気軽に参加することができる「身近な社会貢献」



永井酒造株式会社

川場村

- ▶ 代表者: 永井 則吉
- ▶ 設立年月日: 1886年
- ▶ 資本金: 4,000万円
- ▶ 従業員数: 20人

- ▶ 住所: 利根郡川場村門前713
- ▶ TEL: 0278-52-2311
- ▶ Mail: info@mizubashou.co.jp
- ▶ URL: http://www.nagai-sake.co.jp/



当社HPへは
こちらから→



企業紹介

創業1886年。群馬県最北部、利根川の源流域に位置する川場村。初代永井庄治がこの地の水に出会い酒造りを始めました。仕込み水の確保のため深い森林を所有し、酒蔵周辺は大自然に囲まれ、蔵の前には豊かな水田が見渡す限り広がっています。「この地の自然に敬意と感謝を持ち、自然美を表現する綺麗な酒を造る」ことを哲学として、最新鋭の設備と伝統的な技の融合で美しい酒を醸しています。

経緯・背景

世界的な地球温暖化・気候変動により尾瀬のニホンジカが大量発生し水芭蕉等の高山植物が被害を受け、尾瀬の環境保全が問題となっている背景を元に、当社を含む地元3社（永井酒造、三条印刷(株)、東京パワーテクノロジー(株)）が結束しました。

そして、尾瀬の環境保全プロジェクトを通じて、「女性の力」が十分に発揮され、日本社会の活性化につながる男女平等の実現に向けて、社会における女性活躍を推進。また、地域をつなぎ、パートナーシップを強化して、持続可能な活動を具体的に、積極的に推進する事を目指しています。

具体的な取組

SDGs 尾瀬の水芭蕉プロジェクト～心に花を咲かせましょう～

SDGs 観点に基づいた「MIZUBASHO Artist Series」の発売に併せ、尾瀬の環境問題に取り組むための「尾瀬の水芭蕉再生プロジェクト」を創設、地域と日本酒の未来のための第一歩を踏み出しました。このプロジェクトでは、「MIZUBASHO Artist Series」の売り上げ5%をプロジェクト資金として寄付。集めた寄付金は、水芭蕉の栽培、苗畑での育成事業や、土地管理、フィールドテストに充当し、尾瀬高校、地元企業、地域社会と連携しながら、地域アライアンスに基づいた、産学連携自然保護保全活動とし、尾瀬国立公園の環境保護に貢献していきます。そして、ニホンジカから日本の原風景を守るプロジェクトとして世界へも発信。また、女性のエンパワーメント支援の一環として、各専門分野でプロとして活躍し、環境保護活動に共感を抱いている女性インフルエンサーとコラボレーションを遂行。また、「食のバリアフリー化」を目指し、環境や健康に対する関心を訴求するために、ヴィーガン認証を取得しました。地元企業とのコラボレーション等、地域のつながり、異業種・農商工連携、地域ブランド化事業による海外輸出促進への取組も含まれています。※本事業は、国税庁のブランド推進化事業にも認定されています。



成果・効果

尾瀬の環境保護活動に共感していただいた俳優の片岡鶴太郎氏に「水芭蕉」の花をラベルに描いていただき、アーティストとのコラボレーションで日本酒の付加価値を高めました。コロナ禍、MIZUBASHO Artist Series の販売は好調で、県内外の取引先、異業種の企業、個人からも、SDGsの考えに基づいたプロジェクトに賛同、共感をいただき、寄付金額も約半年で、すでに目標金額の半分に達し、日本酒を楽しみながら、美しい自然環境を守り、未来へ継承する活動へ繋がっています。また、メディアでも多く取り上げられ、広告換算値は累計で数千万を超えるものとなっています。メディアが発信した内容を考察するに尾瀬の環境保全活動、女性のエンパワーメント支援に様々な人の「共感」を創出。国際女性デーを記念して、世界中の女性たちへ日本酒の魅力を発信すべく、「MIZUBASHO Artist Series」のHPと公式Facebookの英語版ページを公開。日本の女性の輝きを海外へ発信していきたい、という想いも込め、「MIZUBASHO Artist Series」を通して女性インフルエンサーを起用。このマーケティング戦略は、国内はもちろん、シンガポールと台湾から賛同の声が上がり、同じく女性を起用した活動がそれぞれの国でスタートし、海外にも環境保全、女性エンパワーメントの輪が広がり始めています。



コンセプトは、気軽に、お洒落に、楽しむ日本酒。新しい日本酒の可能性に。

当社にとってのSDGsと、その展望

尾瀬の水芭蕉プロジェクトを通じ、水芭蕉の花の再生に留まらず、地元の繋がりを強化し、尾瀬国立公園の環境保護に対する意識改革、啓蒙活動等も行います。また、「伝統と革新」をテーマに、日本文化や技術等と触れる機会を増し、SDGsをテーマとした女性向けセミナーを開催し、学びの場も提供する計画。今後、国内やアジアのみならずヨーロッパでの取組も実施できるよう、地域ブランド化事業による輸出促進等も継続予定でいます。